

勉誠通信

Bensey Newsletter 第四号

2009.2.13

小論・研究余滴・随想



新刊・近刊ニュース

彷徨える湖と水環境問題

中尾正義

標準語・共通語・東京語

土屋信一

emojiとインターネット

家辺勝文

張作霖事件

その影の呉俊陞夫妻と
与謝野夫妻と

川崎キヌ子

牛 その語源説

小林祥次郎

小論・研究余滴・随想など本誌にお寄せ願います。



・十六夜日記 白描淡彩絵入写本・阿仏の文

・三大編纂物 群書類従
古事類苑 国書総目録 の出版文化史

・古代史から解く 伴大納言絵巻の謎

・活字印刷の文化史 きりたん版・古活字版
から新常用漢字表まで

・アジア遊学 119 アジアの出産

・歴史知識ことはじめ

・宋銭の世界

勉誠通信 バックナンバー

<http://www.bensey.co.jp/mm.html>

彷徨える湖と水環境問題

中尾正義

(人間文化研究機構理事)

水の都、楼蘭

小林幸子さんが歌っている「楼蘭」という曲が二〇〇八年の夏に発表されました。中国の西部、タクラマカン沙漠の東の端に楼蘭と呼ばれる都がありました。そこはシルクロードの中継基地として栄華を極めていました。満々と水をたたえたロプ・ノールという湖の岸辺です。

そのロプ・ノールが一七〇〇年ほど昔に水を失くしたのです。楼蘭は滅び、今は砂の中に眠っているだけです。胡弓を交えた女子十二楽坊による哀愁を帯びた響きをバックにした「楼蘭」という歌は、「逢いたいのに逢えない」あの人と「逢いたいのに逢えない」楼蘭という都とを重ね

あわせた名曲です。

楼蘭の都を発見したのは、一九世紀末から二〇世紀初めに活躍したスウェーデンの地理学者で探検家のスウェン・ヘデインです。その遺跡からは美しい女性のミイラも見つかりました。楼蘭の美女として有名になりました。

楼蘭が滅びたのは、命の水を支えてくれていたロプ・ノールが涸れたからです。ロプ・ノールを潤していたタリム河の水が湖になくなつたのです。後に、その場所に再び水が戻ってきたのを見たヘデインは、ロプ・ノールを彷徨える湖と呼びました。しかし、ロプ・ノールは今も涸れ果てたままです。

もう一つの彷徨える湖

タクラマカン沙漠の少し東にある祁連山脈という山なみの北麓に沿ってシルクロードが通っています。その北側に居延と呼ばれていた地があります。居延の地には九〇〇年余り昔にカラ・ホト（黒城）と呼ばれる都がありました。豊かな水に恵まれた居延沢（居延海ともいう）という湖の畔です。

時が流れ、居延沢の水も次第に涸れていきました。七〇〇年ほど以前の話です。居延沢に流れ込んでいた黒河という河（弱水とも呼ばれていた）の水が湖になくなつたのです。居延沢はもう一つの彷徨える湖なのです。

地元の伝説によれば、カラ・ホトにはカラ・バートル（黒英雄）と呼ばれる將軍がいました。地域に比類ない勇将だつたとのこと。ある時、カラ・ホトは東から来た軍隊に攻められます。でも、カラ・バートルの奮戦で敵は城を攻め落とすことができません。

そこで攻撃軍は一計を案じます。堤防を築いて居延沢に、つまりカラ・ホトに流れていた河の流れを堰き止めたのです。水の手を切られたカラ・バートルは城内に井戸を掘りますが水は出てきません。水がなければどうしようもありません。彼は、水を求めて最後の決戦に挑みます。愛する二人の妻と、そして息子と娘とを水が湧かなかつた空井戸に投げ込んで殺したうえで出撃したのです。そして、戦いに敗れて死んだと伝えられています。

こうして、カラ・ホトという都も、居延沢という湖が涸れるとともに砂に埋もれていきました。

繰り返される水環境問題

カラ・ホトを攻め滅ぼした東から来た軍隊とはいったい何だったのでしょうか。伝説が実際にあつた戦いだと思定すると、カラ・ホトにいた西夏を攻めたモンゴル軍か、後にカラ・ホトを

治めていたモンゴルを攻めた明の軍隊かということになります。

最近の研究によれば、居延沢に流れ込んでいた黒河の水量は歴史的に大きく変化してきました。その原因は、気候変動というよりは、人間活動にあつたということも明らかになってきました。つまり、黒河からたくさん水を灌漑農業に使った時代には居延沢がどんどん小さくなり、あまり使わなかつた時代には居延沢が大きくなるという変化を幾度も繰り返してきたのです。

そうすると、伝説のカラ・バートルの戦いは現実には起きた戦いではなかったのかもしれない。もしそうだとすれば、カラ・ホトを滅ぼした東から来た軍隊とは、灌漑農業という人間の暮らしぶりのことだったということになります。

今、ロプ・ノールに注ぎ込んでいたタリム河の末端に最近まであつたタイテマ湖という湖は涸れ果てました。最

下流部では河それ自体すらなくなつてしまっています。下流域の地下水位は五メートル以上も低下したのです。兩岸のハコヤナギ樹林も広い面積で枯れてしまいました。ここに住む人たちにとってはゆゆしい大問題です。そして、これらはすべてタリム河の水量が減少を続けた結果なのです。そしてその原因は、より上流域での灌漑農業のためにタリム河の水を過剰なまでに使っていることにあるのです。

居延沢を潤していた黒河でも、その末端にあつたガシオン・ノールとソゴ・ノールという二つの湖が二〇世紀後半になって相次いで消滅しました。周囲にあつた深さ一〜二メートルの浅い井戸は涸れ果ててしまいました。河辺に繁茂していた胡楊の林も衰退しています。ここに暮らしていた牧畜民は大変です。その住処を追われることになりました。彼らは、第二のカラ・ホトになることをとても心配しています。これ

メールマガジン登録の申し込みはこちらから

らの原因もまた、灌漑農業のために過剰なまでに黒河の水を使っていることにあるのです。

水は誰のものか

楼蘭もカラ・ホトも水を失って滅びました。世界各地で水環境問題が生じています。第二、第三の楼蘭やカラ・ホトが生まれようとしています。いったいどうすれば、逢いたいあの人と逢うように、水の都としての楼蘭やカラ・ホトと逢うことができるのでしょうか。

カラ・バートルは、愛する者たちを犠牲にしてまで、水を得ようとししました。そして、その戦いに敗れました。わたしたちが第二のカラ・バートルにならないために、いったいどうすればよいのでしょうか。



中国の水環境問題

開発のもたらす水不足

中尾正義・銭新・鄭躍軍【編】 定価・二九四〇円（税込）・四六判上製・二二四頁

発展著しい中国を中心に、水をめぐる環境問題の背景を検討し、問題そのものを見定める。水が不足したのはなぜなのか。水が汚染した原因は何なのか。それを防ぐ手立てはなかったのか。その原因となった活動は不可避なのか。



第1部 水資源

地球環境問題としての乾燥、半乾燥地域の水問題／窪田順平
黄河流域の水資源管理について／宋献方・王志民
中国の水資源管理／陳菁・中尾正義

第2部 湖環境

湖は、どうしたら蘇るのだろうか／高村典子
流入河川による太湖の水質汚染に対する規制と対策／鄭正・柏益堯・銭新・羅興章・崔益斌・左玉輝
太湖の藍藻アオコへの予測と予報／孔繁翔
湖沼富栄養化対策の道／銭新
富栄養化と複合的環境問題／秋道智彌

第3部 環境とアセスメント

長江の水環境問題及びその対策／朱偉
中国における環境アセスメント／色音
持続可能な発展と環境評価／吉岡崇仁
環境問題から始まる倫理の時空的展開／小長谷有紀

環境と心性の文化史 上・下

増尾伸一郎・工藤健一・北条勝貴 編 定価各六三〇〇円（税込）
A5判上製・各約四一〇頁

人の心が生んだ、豊かな自然の宇宙。人間は自然環境をどのように捉え、どのように働きかけ、どのように作りかえてきたか。それぞれの時代・社会に特有な「心性」を明らかにし、「環境問題」への思考基底を示す。

東アジア国民性比較 データの科学

吉野諒三 編 定価一三四四〇円（税込）・A4判上製・三九二頁

価値観、健康感、宗教心、信頼感、自然観・環境観、日本語観……最新の「東アジア価値観国際比較」調査を中心に、科学的に収集された統計的調査データによって、東アジア地域の各国国民の意識構造を比較する。

アジア遊学13号 地域情報学の創出

編集部 編 定価二一〇〇円（税込）・A5判並製・二二四頁

地域研究における情報学の活用を提唱する。

アジア遊学99号 地球環境を黒河に探る

編集部 編 定価一八九〇円（税込）・A5判並製・二二四頁

総合地球環境学研究所の、気候変化による河川流量の変化について、中国祁連山脈北方の黒河流域を調査したプロジェクトのまとめ。

アジア遊学45号 山西省——黄色い大地の世界

編集部 編 定価一八九〇円（税込）・A5判並製・一九二頁

黄河文明の発祥地、悠久の歴史をもつ山西省の特集。



標準語・共通語・東京語

土屋信一

ある地方の人が自分の言葉を内省してみるとき、「○○では」と言うが、自分は「こう言う」と考えることがあるだろう。その場合○○には「標準語」「共通語」「東京語」のいずれを入れるだろうか。恐らくどれを入れても、それによって自分の言葉が変わることはないだろう。つまり自分の方言を考える時には、この三つの用語の区別はどうでもよいことである。方言学研究者にとっても、対象とするそれぞれの地域の言葉に対する「中央の言葉」であって、厳密な定義はしなくても、研究に差し障りはない。

「標準語」という用語は明治二十年代から使われる。学校教育においても、方言撲滅のためには、「標準語教」とを、時と場合によって使い分ける。前者は「標準語」「共通語」と言われ、後者は「東京方言」と言われる。いずれも「東京語」には違いない。「東京方言」の研究はあるが、「共通語」のほうは、どこにルーツがあるのか。「中央の言葉」として優位に立ったものが「共通語」、劣勢の方が「方言」と説明しても、それではどうやって優位に立てたのかという疑問が残る。このへんが全く未解決のままなのである。

「共通語」は山の手の言葉が基になったものだと言われる。しかし江戸時代以来、山の手地区は明治維新で住人が

育」が強く推し進められた。これに対して「共通語」は、戦後国立国語研究所が設立されてから、国語研がはやらせた言葉だと言われる。「標準語」としてわざわざ制定されたものではなく、国家が言葉を押しつけるべきものでもない、戦後「共通語」と言われるようになった。それまで、山の手の中流家庭で話される言語という漠然としたイメージで語られていた、「中央の言葉」が「共通語」と呼ばれるようになった訳である。

困ったことに、山の手の中流家庭の言語調査はいまだかつて行われていない。国語研究所でも設立直後、東京の山の手と下町の言葉を調査して、ほとんど差異が見出せなかったことを『年

入れ替わり、関東大震災・東京大空襲と打撃を受け、地域の次の住人達に言葉や文化を伝えることができたのか、疑問である。私は地域・階層を越えた言葉が江戸時代末までに出来ていたのだらうと想像している。これは私の勝手な想像ではなく、日本語史を研究しているかなりの方々は、そう想像しているのではないかと思う。芝居やテレビドラマでは、勝海舟はペランメエ言葉で、西郷隆盛は薩摩言葉で話すが、

それでは江戸城無血開城の話し合いはまともなかつただろう。江戸時代から連綿と「共通語」は形成され続けて

報」に報告している。その後何度か東京の言語調査を実施したが、人口の移動が激しく、不在者が多く、非協力的な人も多く、都市の言語の実態調査は、はかばかしい成果を上げていない。

一方、ラジオ・テレビの普及で、この「中央の言葉」は、十分に理解され、聞いて分かるだけでなく、話されるようになり、「方言」とそれに対応する言葉の対になって、日常的に使われるようになってきた。「標準語」を押しつけられたという感覚もなくなり、「標準語」でも「共通語」でも構わないという状況になってきた。「標準語」という呼称で構わないという声が、西日本から聞こえてきた時は、東京出身の私は戸惑った。私自身は自分の言葉を「標準語」と呼ぶ厚かましさは持ち合わせてないし、また「標準」にはほど遠い雑多な言葉だと感じている。

例えば、「大きい」と「でかい」「でつかい」とも、「知らない」と「知らねー」

きたのである。

「共通語」にすっかりメスを入れて解明すること、これは現代の「日本語」の重要課題だと思う。今回「江戸・東京語研究」をまとめるにあたり言及出来なかつたが、東京大学による文京区片町・八千代町付近の言語調査、NHKテレビが発掘した港区の「山の手蜜語」の存在等、興味深い報告があることを記して、筆を置く。

追記

「共通語」という用語は、私の知る限りでは、中村通夫氏が昭和一六年ごろから使っている。（同氏『東京語の性格』による）

江戸・東京語研究——共通語への道——

土屋信一【著】 A5判上製函入・定価・一三二五円（税込）

東京共通語がいかに形成されてきたかを、江戸時代までさかのぼって追究し、共通語の通時的研究の可能性を明らかにする。「浮世風呂」「浮世床」だけでなく、従来なおざりにされている戯作資料の扱いにも言及。

【目次】
一章 共通語への手がかり——「れる・られる」敬語／二章 江戸共通語／三章 三馬を資料とする江戸語研究／四章 東京語へ



【近刊書籍】

日中韓日用漢字通用辞典

佐藤實悦・藤嶋仁【著】 定価・四七二五円（税込）

同じ漢字でも、日本・中国・韓国で意味が違う。日常的に使われる約三〇〇〇の熟語・漢字の意味の違いを詳述し、各国語の用例を付す。歴史・風土・風習の違いによって生じた意味の違いを知る、漢字文化圏の誤理解消に必携の事典、日中韓同時刊行。

emoji とインターネット

家辺 勝文

(日仏会館フランス事務所)

■ emoji とユニコード

携帯電話でのメール作成は独自の入力方式によるため不自由なことも多いが、絵文字が使えたり、各種の記号の組合せや略号の使用などによって独特の文面を構成することができる「図 1」。しかし、たとえば日本の携帯電話から絵文字入りのメールを一般のインターネットメール・アドレスに送ると多くの場合絵文字は文字化けしてしまう。これは絵文字の文字コード化の方法に問題があり、インターネットメールとの互換性が保証されていないためだ(安岡孝一「ケータイの絵文字と文字コード」『情報管理』50巻2号、二〇〇七、を参照)。携帯メールもインターネットメールとして送ること

ができる以上、携帯独自の拡張や制限に対してインターネット側の論理から解決が迫られても不思議ではない。二〇〇七年四月から Gmail のサービスを携帯電話上でも提供しているグーグルは同年八月に携帯メールの絵文字をユ

●絵文字変換対応表●

図1 NTTドコモが公表している携帯各社間の絵文字変換対応表の冒頭部分 (http://www.nttdocomo.co.jp/service/mail/imode_mail/function/emoji_convert/)

■ピクトグラムと図記号の世界

グーグルの草案には追加すべき文字の種類を表す総称として日本語の emoji という用語が使われている。pictogram のような英語の用語もあるのにわざわざ emoji としているのは、pictogram が既に別の分野で異なる対象を指す用語として使われているからだろう。それは、製図記号、地図記号、案内用図記号などの図記号 (graphical symbol) の一種としてのピクトグラムであり、ピクトグラムはまた「絵文字」とも呼ばれている(太田幸夫『ピクトグラム「絵文字」デザイン』柏書房、一九八七、などを参照)。図記号はこの分野の国際規格、国内規格で使われている用語で、特定の言語から独

立して図形によって視覚的に情報伝達を可能にすることを目指しており(JIS Z 8210:2002「案内用図記号」の用語の定義などを参照)、形や色の文化的な意味合いにも配慮した図形設計を重視する点で、具体的な字形設計を規定しない符号化文字集合における「文字」とは著しい対照をなす「図2」。

■図記号と普遍言語

このような図記号は、一九二〇年代にオットー・ノイラートが考案した社会統計を表現するための絵ことばである「アイソタイプ」に見られるように、特定の言語によらず世界に通用する視覚的なコミュニケーションの手段をつくるという志向性を含んでおり、こうした企ては十七世紀後半のヨーロッパにおける普遍言語 (universal language)・普遍文字の試みにまで系譜をたどることができる(L・ホグベン著『寿岳文章・林達夫・平田寛・南



図2 JIS Z 8210:2002「案内用図記号」に含まれる110種の図記号一覧[2006年改正で3種の図記号が追加されている](交通エコロジ・モビリティ財団のサイトで公開 http://www.ecomo.or.jp/barrierfree/pictogram/picto_jis110.html)
なお、日本案が国際標準となった非常口を示す図記号は消防法施行規則に基づく消防庁告示「誘導灯及び誘導標識の基準」(<http://www.fdma.go.jp/concern/law/kokuji/hen52/52030103020.htm>)で定められている。

博訳『洞窟絵画から連載漫画へ——人間コミュニケーションの万華鏡——』岩波文庫、一九七九、などを参照)。普遍文字 (ジョン・ウィルキンズが提案した Real Character「一六六八」など) の試みは一般には普及することなく終わったが、数式や化学式などの記法の分野では世界共通の記号の使用が現在成功を収めているし、十八世紀には太陽系の惑星を表す記号、楽譜用の記号その他の多様な図記号が印刷物の上で通用していた「図3」。

■ emoji の機能と伝達方法

携帯メールで使われる絵文字 (emoji) は言語表現を前提とした記号なのか、言語とは独立した記号なのか一律には断定できないし、今後どのくらい幅広く通用する表現手段になるかも予測したい。emoji のデザインをピクトグラムにおける繊細なデザイン設計と同列に論じることではできない

張作霖事件は、昭和三年六月四日、中国の瀋陽駅近くで起きた列車爆破事件であるが、当時奉天駅といったこの上階には大和ホテルがあった。ほかに、大連、旅順、長春、哈爾濱、などにもあるが、この瀋陽駅にもあった大和ホテルは、現在中山広場に移築されて、遼寧賓館（二代目大和旅館）として営業している。また新たな瀋陽北駅も出来ている。

現在の瀋陽駅は、当時の奉天駅の両端に増築されて横に長くなっているが、全く同じ造りになっており、中央二階には、ステンドグラスなどわずかに当時のホテルの面影が残っている。

与謝野寛と晶子夫妻

昭和三年五月から与謝野夫妻は、満鉄の招きによつて、満蒙を旅している。その折のことは『満蒙遊記』に纏められているが、今勉強出版から刊行中の『鉄幹晶子全集』（26）にも全写真入りで収められている。

私は、与謝野夫妻の満洲の足跡を、数年前に蒙古以外の地を訪ね歩いた。与謝野夫妻は、大連・旅順・湯崗子・千山・遼陽・安東から内蒙古・斉齊哈爾・哈爾濱・長春・吉林等を廻つて奉天から再び大連に戻つて帰国している。

夫妻は、昭和三年六月三日午後八時三十分に奉天駅に着き、駅楼上の大和ホテルに泊る。翌四日早朝、汽車の

張作霖事件——その影の呉俊陞夫妻と与謝野夫妻と

が、具体的な形状が emoji の同定にとって本質的ではないと言い切れるものかどうか。既定の種類しかないにしても emoji によって通常の文字表現よりは手っ取り早く小さな絵入りのメッセージを送ることができる。それは文字コードによるメッセージの伝達という方法からはみ出る部分を手軽に実現しているとも言えるだろう。Gmail を携

帯から利用して emoji 入りのメッセージを送ると、emoji 部分は携帯用の文字コード列およびインライン画像の画面で伝達される。このように文字コードとは別に emoji の絵そのものを伝達する方法は、応急的な代替手段であるどころかむしろ emoji の機能をよくとらえた方法と言うべきなのかも知れない。



図3 十八世紀前半のチェンバーズの『百科事典』の項目 CHARACTER の中の各種記号類 (Chambers, Ephraim. *Cyclopaedia*, Vol 1 [London, 1728], p. 198) [ウィスコンシン大学で公開しているページ画像より <http://digital.library.wisc.edu/1711.dl/HistSciTech.Cyclopaedia>]

川崎キヌ子

(和洋女子大学名誉教授)

与謝野寛と晶子夫妻

昭和三年五月から与謝野夫妻は、満鉄の招きによって、満蒙を旅している。その折のことは『満蒙遊記』に纏められているが、今勉強出版から刊行中の『鉄幹畠子全集』（26）にも全写真入りで収められている。

出入りする汽笛や響きのために眠れなかつたのであるが、変な音を幽かに聞く。それが満鉄京奉線の交叉するガード下での爆破事件だったのである。

この日から街の中は大変な騒ぎになるが、張作霖のことは長い間伏せられ、一緒にいた黒龍江省の督軍、呉俊陞が倒れたことを知らされる。

今このガード下近くに「皇姑屯事件発生地」という碑が建立されている。

吳俊陞

この呉俊陞という人は、「呉大舌頭」（それつが廻らない人）というあだ名で、貧しい家に生まれ、家畜の世話をしたり、雑役として働き、馬と武器を得意として清軍の一騎兵となつてゐる。全く字も読めず、愚かで無知な一面もあつたが、軍隊の生活が大好きで、世渡りがうまいために昇進し、また、馬の習性をよく知る事で世に出る事になる。清朝末、遼寧の西部が貧しくなり、

【アジア遊学 109】

絵を読む文字を見る

小峯和明【編著】C・マルケ、家辺勝文ほか
定価・二二〇〇円（税込）

主眼に奈良絵本、江戸時代の版本の挿絵や画譜、扇、活字、和紙など、日本の文字文化・出版文化史について種々な側面から考え、広い意味での日本文学、テキストの媒体について日仏の研究者を中心に再考。

「目次」

序言特集に寄せて

院政時代の装飾経における「女人成仏」

「和辻の本地」の絵と物語を説く
フランス所在の奈良絵本・絵巻

出版文化開花前夜における
忘れられた媒体「扇」について

『吉原むかし絵本』(「さい」)について

フランス国立図書館所蔵の大岡春卜『明朝紫硯』をめぐって

春信の絵本と錦絵——絵を読む楽しみ
江戸読本に見る造本意識

江戸時代のいたずら書き—文字絵を中心に
寺子屋の文字教育

万亭應賀の著作に見る河鍋曉斎の戯画
鶴吉さがし

彫り師木村嘉平と筆意彫り
ウィーン版『浮世形六枚屏』

レオン・ド・ロニーの書物と『まいにち
ひらかなしんぶん』に用いられた仮名活字

「文字文化・出版文化」に関する
連続セミナーの頃

編集後記

小論・研究余滴・随想など本誌にお寄せ願います。詳細については「投稿募集」をご覧ください。

メールマガジン登録の申し込みはこちらから

匪賊が暴れたとき、先陣を切って退治し、手柄を立てる。そして鄭家屯に、駐在のころに同じ軍人出身の張作霖と旧知のようになり、忠心を示して黒龍江省の督軍兼省長になっている。

このように軍閥として勇猛果敢である半面、放縱で權威をかさに着て、大衆をいじめて財産や金銭を強奪し、巨万の富を得ている。二十七万ヘクタールという畑や、数箇所に邸宅があり、商工業、製油、製酒、銀行等の経営から、家畜馬三千頭、駱駝百頭などなど。この呉氏の外交方針は、主に日本とよい関係を築く事でもあったという。

李助君

一方、李氏はもと嫩江の花旦女優であったが、呉氏に一万銀円で買われて、十五歳で正式に第四夫人として結婚する。一九〇一年生まれで、五十二歳の呉と結婚しているのである。しかし、呉俊陞はこの頃から変わったよ

であった。記事の見出しは、

呉氏の冥福を祈り

毒を呷って殉死

伝へられる賢徳の声高かった

呉氏第二夫人悲話

とあり、与謝野夫妻の手向けとなった歌として三首が載っていた。夫妻が丁度大連に戻った翌日の夕刊である。たった一枚しかないと思っていた李夫人の別の貴重な写真も載っていたのである。

与謝野夫妻は、帰国後、暫くしてから李夫人の助かった事が分かって、寛は早川氏宛てに手紙を書いている。

この李夫人は、その後生きる決意をして、名を又生ゆうしうと改め、黒龍江省の女性たちにとって何が一番重要であるか、教育であるという考えから、その莫大な財産を公共事業や教育に寄付し、自らも「助君学校」を作っているのである。

うであるという。また李夫人も、もとと教育を受けていなかったのであるが、意欲的で、家庭教師を雇って大きく成長し、黒龍江の要員夫人の中でも学者といわれ、外交夫人の位に着いて成功を収め、海外の人にも称賛されている。夫妻は、大変仲がよく、夫人も夫によく尽くしていたという。後に第二夫人になり齊齊哈爾の督軍府に住んでいたのである。もし、夫君が没せられたら殉死をする覚悟で、齊齊哈爾の呉氏邸には予てから二つの柩が備えられていたという事であるが、もう少し深い意味があったようである。

与謝野夫妻と齊齊哈爾

ところで、与謝野夫妻は、奉天に行く前、五月二十六日に齊齊哈爾の満鉄公所所長の早川正雄先生を訪ねている。初対面であるが、ここで予定外の呉俊陞第二夫人李氏と警視總監、劉氏の馬氏を紹介され、大歓迎を受け

ることになる。早川夫妻とともに、この李夫人は、嫩江にある劉中將の水荘に与謝野夫妻をどうしても案内したいと、貴賓として扱い、捧銃の礼や給仕もすべて督軍付きの兵士等である。前から織物商の手代も別室に呼んであり、お土産に差し上げたいという。深夜になってしまったために、臨時特別列車を仕立てて料理と給仕をも用意している。

このようなもてなしを受けてから、呉俊陞の死を知らされたのが、九日目の朝の事だったのである。

与謝野夫妻は、あの若い聡明な李夫人のことを思い、心痛める。夫人が殉死をしたという噂や、助かつたらしい、など混乱する。夫妻が大連に戻ってから真相は不明のままで帰国している。

先日、私の友人が、当時の新聞、「滿洲日報」の記事、六月十日（九日夕刊）を見つけてきてくださって、大感激で

鉄幹晶子全集 全四十四巻

逸見久美・市川千尋・田口佳子・川崎キヌ子【編】
A5判上製力バー装・各巻定価・六三〇〇円（税込）

与謝野鉄幹・晶子夫妻の、単行本化された著作を中心に刊行順に収録した、日本文学史上初の〈夫婦〉の全集である。『みだれ髪』百年を記念し、二〇〇一年二月より刊行開始。各巻末には第一線の研究者による書誌解題を付す。

最新刊の第二十七巻（二〇〇九年三月下旬刊行予定・定価六三〇〇円）には、与謝野晶子が昭和期に発表した評論集「優勝者となれ」に、平安朝女流日記「蜻蛉日記」の現代語訳を併せる。

明治期篇 第一巻〜第八巻 「東西南北」から「新訳源氏物語」まで
大正期篇Ⅰ 第九巻〜第十六巻 「明るみへ」から「新訳和泉式部日記」まで
大正期篇Ⅱ 第十七巻〜第二十二巻 「新訳徒然草」から「心の遠景」まで
昭和期篇

第二十三巻

霧嶋の歌／与謝野寛・与謝野晶子 ほか

第二十四巻

女子作文新講巻一〜三

第二十五巻

女子作文新講巻四 ほか

第二十六巻

満蒙遊記／与謝野寛・与謝野晶子 ほか

第二十七巻（近日刊行予定）

優勝者となれ 平安朝女流日記「蜻蛉日記」



牛 その語源説

小林祥次郎

もう一つ「牛」を書きます。ウシという語の語源を、先人たちは何であるとしているかを見て行きます。

松永貞徳は『和句解』(一六六二)に、「失^{ウシ}といふ字より出づるか。但し牛といふ字より、失の字をうしなひといふ心にうしなふと付くるか」としています。漢字の失と牛と字が似ているので、そこに語源があると考えています。

貝原益軒の『日本釈名』(一七〇〇)には、「うるさし也。うらめしき意。その形恐ろしく恨めしきもの也。うらめしきをうしと言ふ」とあります。大きいから恐ろしく恨めしいというのでしょうか。揚げ足と取れば、ウレシ(嬉)でもウシになりましょう。

契沖は、『円珠庵雜記』(一六九九)で、

じつけが多いのですが、著者がウシという語からの連想を語っているのであると考えると、それぞれにウシの一面についているのではないかと思えます。

漢字の「牛」は、後漢の許慎の『説文解字』に「角・頭三、封・尾の形を像^{かたど}る」とあり、清の段玉裁の注に、「角・頭三」は角と頭で三つになっていること、「封は肩甲墳起の処」としています。

しかし、殷時代の甲骨文などから判断すると、角の大きい牛の顔を正面から見たものようです。字音ギユウ(ギウ)を、藤堂明保は「隋・

唐の時代には ngau と



発音したので、…それはウシのなき声をとつた擬声語である」(漢字の話 一)としています。



『日本書紀』に大人・卿をウシと読んでいて、牛は用途の多いものだからこの名を与えたか、またウシとヌシと通ずるか、としています。谷川士清の『倭訓栞』(一七七七)に、「人の労に代るをもて、能を称して名となるるべし」としているのは、この前説に通ずるものでしょう。『倭訓栞』では、さらに「あるいは大肉^シの義といへり」とも記しています。

新井白石の『東雅』(二七一七)は、「牛をウといふことは、韓地の方言とこそ見えたれ。即ち今も朝鮮の方言、牛を呼ぶことはウと言ふなり。我が国の古へ、およそ獣をばシシと言ひけり。」としています。前半は朝鮮語とする説ですが、現代の朝鮮語ではと

そうです。後半はシはシシ(獣)というのでしょう。シシは本来は肉のことです。

大石千引の『言元梯』(一八三四)は、モウシで鳴き声としています。賀茂百樹『日本語源』(一九四三)も、諸説を批判して、「この畜の鳴声はウ、ともウモウとも聞ければ、その鳴声の名とせるが如し。」としています。

服部宜の『名言通』(一八三五)は、「ウツ(打)サリ(去)也。…ウツハウチテ使フヲ云フ」としています。鞭で打って使役することなのではないしょう。

大槻文彦は『言海』(一八八九)では、「大獣ノ軀力^{オホシ}」とし、「大言海』(一九三二)では、「大獣の約^{オホシ}」としました。松岡静雄『日本古語大辞典』(一九二九)も、「ウ(大)シ(宐)」。シシの大きなものといふ意である。」としています。これは「倭訓栞」の後説と同じでしょう。

このような次第で、語源説には、こ

十六夜日記

白描淡彩絵入写本・阿仏の文

田淵句美子【編】

定価・五〇四〇円(税込)

『十六夜日記』『阿仏の文』の稀覯本(国文学研究資料館蔵本)を影印。正確な翻刻と最新の研究成果を取り入れた注釈を附す。『十六夜日記』は、万治刊本に近い本文、白描に淡彩を施した奈良絵風の挿絵を有す近世初・前期頃の絵入写本で、他に類を見ない貴重な伝本である。また、阿仏尼による女訓書として知られる『阿仏の文』は、現存最古写本とされる室町前期頃の写本で、略本系統の本文を持つ。



古代史から解く

伴大納言絵巻の謎

倉西裕子【著】

定価・二五二〇円(税込)

平安京に豪壮と構え建つ応天門。貞観八年(八六六)閏三月十日、火災から事変へ。応天門の変は、背景に政界の勢力図が見え隠れする歴史的な重大事件であった。三〇〇年あまりを経て、応天門炎上を題材に描かれた傑作絵巻『伴大納言絵巻』。それに登場する謎の人物は一体誰なのか。応天門炎上の真犯人は誰なのか。今日に至っても解明されない永遠の謎を古代史研究からの視点により鮮やかに解き明かす。



三大編纂物

群書類従
古事類苑
国書総目録
の出版文化史

熊田淳美【著】

定価・三三六〇円(税込)

未曾有の大業書は如何に編まれたのか——日本文化研究を牽引した江戸・明治・昭和を代表する大出版物、群書類従・古事類苑・国書総目録。本来、国家的事業として行われるべきこの事業が、民間資本により行われた、その歴史的背景を探る。



◆◆ Web ページのご案内 ◆◆ <http://www.benssey.co.jp/>

近刊を含む書籍の内容紹介から、新刊・既刊書籍のご購入、最新ニュース・書評掲載情報など。

◆◆ ご注文方法 ◆◆

- ① web ページによるご注文 <http://www.benssey.co.jp/howtobuy.html>
② 電話・FAX によるご注文電話：03-5215-9021 FAX：03-5215-9025

◆◆ お支払い方法 ◆◆

銀行振込・郵便振替・代金引換払*・クレジットカード**等がご利用いただけます。
(いずれの場合も、送料が別途 300 円かかります)

- ① 銀行振込の場合
三菱東京 UFJ 銀行麹町支店普通 3848245 ベンセイシュッパン (カ)
② 郵便振替の場合
00120-3-41856 勉誠出版株式会社

* 代金引換払の場合、さらに 315 円かかります。(ご注文が 3,000 円未満の場合のみ)
** クレジットカードのご利用は、当社サイトにてのご注文に限ります。

投稿募集

「勉強通信」へのご寄稿を募集いたしております。
現在のご研究内容の紹介や、ご興味をもたれていることなど、どんなことでも構いません。ご自由にお書きいただければと存じます。

◆ 執筆分量…誌面二頁（一五〇〇字程度）ないし三頁（二三〇〇字程度）
写真などが入る場合は、文字数をそのぶん減らしてください。

四〇〇字を目安に、適当な小見出しをお付けください。

◆ その他…適当なタイトルをお付けください。肩書きをご連絡ください。

◆ 入稿形式…テキスト形式（ワード、一太郎形式也可）

◆ 校正…原則として校正は無しとさせていただきます。

◆ 謝礼…ご執筆誌面一頁につき一〇〇〇円分のポイントをお渡しいたします。
ポイントは、小社の書籍を直販にてご購入いただく際にご利用いただけます。

◆ お問い合わせおよび送付先：mminfo@benssey.co.jp
メールアドレスに「勉強通信用原稿」と明記してください。

編集後記

文京区にある湯島天神の梅まつりに行ってきました。立春を過ぎたとはいえ、初日の二月八日はまだつぼみも固く、一〜二分咲きといったところでしたが、受験シーズン真っ最中ということもあり、境内は観光客と合格祈願の絵馬でいっぱいでした。

梅は中国原産とされますが、今ではすっかり日本文化に溶け込んでいます。梅の語源には、荻生徂徠や大槻文彦によるものなどさまざまな説があるようですが、詳しくは小社刊『梅と日本人』（小林祥次郎著）をどうぞご覧ください。語源以外にも、日本人が梅とどのように関わってきたかについての興味深い論考がたくさん掲載されています。

湯島の梅まつりは三月八日まで、花の見ごろは二月中旬から下旬とのことです。